

## 第2学年 国語科学習指導案

1組 計21人(男子11人, 女子10人)

指導者 田之上 貴文

- 1 単元 「読んでせつめいのしかたを考えよう」(教材「しかけカードの作り方」光村2年下)  
「分かりやすくせつめいしよう」 (教材「おもちゃの作り方」光村2年下)

### 2 目標

- |  |                   |
|--|-------------------|
| ○ 進んで説明の仕方の工夫を読み取り, 学習したことを生かし, 分かりやすく事物の作り方を説明しようとしている。           | 【国語への関心・意欲・態度】    |
| ○ 時間や事柄の順序を考えながら文章を読み, 分かりやすい説明の工夫を見つけることができる。                     | 【読む能力】            |
| ○ おもちゃの作り方の説明を内容のまとまりごとにいくつかに分けて配置し, 手順に沿って, 説明の工夫を用いて文章を書くことができる。 | 【書く能力】            |
| ○ 順序を表す表現を用いて書くことができる。   | 【言語についての知識・理解・技能】 |

### 3 単元について

#### (1) 単元の価値

本学級の子どもたちは, これまでの学習で, 時間の順序や事柄の順序を考えながら内容の大体を読む学習をしてきている。また, 「はじめ・中・おわり」などの簡単な構成をとらえ, 自分が観察してきたことや想像したことを事柄の順序に沿って書く活動を経験してきた。

そこで本単元では, しかけカードの作り方の説明の工夫を読み取り, 読み取ったことを生かして手順などの事柄の順序を考えながら, 分かりやすい「○○の作り方」という説明書を書くことをねらいとして単元を設定した。

教材「しかけカードの作り方」は, 書かれた内容を確認しながら実際にしかけカードを作るため, 子どもが楽しみながら説明の工夫を読み取れる教材である。作り方の説明も, 内容のまとまりごとに作業の手順にそって書かれており, 文章だけでは説明し難いところは, 写真や数値を用いて詳しくするなど, 読み手に分かりやすい説明の工夫がとられている。また, 教材「おもちゃの作り方」は, 前単元で読み取った説明の工夫を生かし, 実際に作ったおもちゃを題材にして書くため, 子どもが取り組みやすい教材である。

本単元で子どもたちは, 叙述にそってしかけカードを作り, 内容を読み取ることで, 説明書の構成や順序を表す言葉の使い方, 写真, 数値を用いた説明の補足などについて理解することができる。また, おもちゃの作り方を内容のまとまりごとに分け, 順序を表す言葉を使って書いたり, 「何を」「どうする」という基本の文型や作るときの注意文を使って書いたりすることで, 分かりやすい説明書を書く力を身に付けることができる。

ここでの学習は, 書くことを決めて様子の表し方を工夫する「見たこと, 感じたこと」の学習へと発展していく。

#### (2) 子どもの実態

##### ア 教科全般に関する実態

本学級の子どもたちは, 学習に対する興味・関心が高く, 楽しんで学習に取り組んでいる。自分が観察したことや想像したことを書いたり話したりして周りの人に伝えたいという気持ちが強く, 発表も意欲的に行っている。友達の発表に対しても, 興味をもって聞き, 「いいと思います。」「他にもあります。」「付け加えます。」「ちょっと違います。」などの反応を示す子どもも増えてきている。一方で, 人前で話すことや間違えることへの不安感から, 大きな声で発表できない子どももいる。音読については, 日常的に音読を行ってきているため, 既習単元については適切な速度で正確に読むことができる子どもが増えてきた。書く活動については, 丁寧さと速さの両立を目指して指導を続けているが, 個人差が大きく, 書くことに多くの時間を必要とする子どももいる。

イ 本単元の内容にかかわる実態（調査日 平成23年9月20日 調査人数21人）

① 物の作り方を教える説明文を読んだことがありますか。
ある 14人      ない 7人
② 説明の文を見ながらどんなものを作ったことがありますか。（①あると応えた子ども）
スライム 3人      プモデル2人      ビーズ2人      水鉄砲1人      作ったことはない6人
③ 日記や物語、観察記録など書くことは好きですか。
はい 17人      いいえ 4人

本学級の子どもたちは、事物の作り方を説明した説明書を読んだことがある子どももいる。しかし、説明書を見ながら何かを作ったことがある子どもは多いとは言えない。書くことに関しては、多くの子どもが「観察名人になろう」や「こんなお話考えた」などの経験を通して、書くことの楽しさを味わってきている。一方で、書くことを苦手としている子どもたちもいる。その理由として題材を見つけられないということがあるため、書く内容を確実にもたせて活動に取り組ませる必要がある。

本教材で取り扱う「何を」「どうする」や順序を表す言葉などに関しては、日記の中で使って書くことができる子どもが増えてきている。また、単元で学習したことと関係のある関連図書を読む子どもが増えてきている。

#### 4 指導に当たって（研究との関連）

本単元の指導に当たっては、以下のような点に留意して指導していく。

- 「つかむ」過程では、教師が用意したしかけカードを見せることで、しかけカードへの興味・関心を喚起し、自分たちも作ってみたいという意欲をもてるようにする。そして、生活科の山下祭りに関連させ、1年生を招待し、自分たちが書いたおもちゃの説明書を基におもちゃ作りを楽しむ、「行列のできるおもちゃ屋さんを開く」ことを知らせることで、目的をもって読みを進め、説明書を書くことができるようにする。
- 「深める」過程では、教師の範読を聞きながら写真を並び替え、「何を」「どうする」という文型で見出しを付けさせることで、作る手順の見通しをもたせ、しかけカードを作ることができるようにする。そして、作るときの注意を伝える文や写真や数値のない説明書を読み元の説明書と比べることで、注意を伝える文や写真、何センチメートルという数値の必要性に気付くことができるようにする。さらに、順番がばらばらの説明書を正しく並び替える活動に取り組ませることで、順序を表す言葉の働きに気付かせる。なお、並び替える際の話し合いでは、明確な根拠や理由をもって互いの考えを伝え合うことで、自己の考えを確かにしたり、新たな考えに気付いたりすることができるようにする。
- 「味わう・高める」過程では、教師の用意した共通の手順のおもちゃを作り、「何を」「どうする」の文型を掲示したり、作業の内容を確認させたりすることで、作る手順を「作り方メモ」に書くことができるようにする。その後、掲示されたこれまでの学習の足跡を確認することで、学習した説明の工夫を生かし、分かりやすいおもちゃの作り方の説明書を書くことができるようにする。そして、説明の工夫が示された「よく書けたかなカード」や話し合いの進め方を基に友達と読み合うことで、分かりやすい説明書を書けているか確認することができるようにする。
- 「まとめる・広げる」過程では、自分が1年生に勧めたいおもちゃを選び、説明書に書き表すことで、共通のおもちゃと作り方メモを基にして身に付けた学びを生かして、書くことができるようにする。「深める」段階でまとめた説明の工夫を掲示することで、観点を基に友達の説明書のよいところを評価できるようにする。評価の際は、付箋により所を書かせることで、互いの表現のよさに気付くことができるようにする。

5 指導計画(全12時間)

□□□□は評価項目及び評価方法

過程	時間	主な学習活動	教師の指導	
つかむ	2	1 しかけカードの見本を見て、思ったことや感じたことを話し合う。	○ しかけカードの見本に触れさせることで、しかけカードへの興味・関心を喚起し、作ることへの意欲を高めることができるようにする。 ○ 生活科の秋祭りや、1年生と一緒に作るおもちゃ屋さんを開くために、1年生が読んで分かるおもちゃの説明書を書くという言語活動を計画することで、相手意識、目的意識をもって学習に臨めるようにする。	
		2 全文を読み、しかけカードの作り方を讀んだ感想を話し合う。		
深める	3	3 学習課題を確認し、学習計画を立て、見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">分かりやすいおもちゃのせつめい書をつくろう。</div>	進んで説明の仕方の工夫を讀み取り、学習したことを生かし、分かりやすく事物の作り方を説明しようとしている。(発表)【国語への関心・意欲・態度】	
		4 「しかけカードの作り方」を讀み、作り方の順序を調べ、カードを作る。		○ 順番がばらばらな写真を並べ直し、「何を」「どうする」という文型の見出しを考えることで、作る手順の見通しをもつことができるようにする。 ○ 作り方を讀みながらカードを作ることで、作り方の手順を理解することができるようにする。
		5 写真や数値のないしかけ文を讀み、写真や数値があるよさを確認する。		○ 写真や数値が記載されていないしかけ文をもとにカードを作ることで、写真や数値を示すことの必要性に気付くことができるようにする。
味高 めうる	4 (本時 4/4)	6 手順がばらばらの文を正しく並び替え、分かりやすい説明の工夫を見つける。	○ 手順がばらばらのしかけ文を並び替えることで、順序を表す言葉の働きや説明書の構成の工夫を見つけることができるようにする。 時間や事柄の順序を考えながら文章を讀み、分かりやすい説明の工夫を見つけることができる。 (発表・観察・話し合い) 【読む能力】	
		7 「しかけカードの作り方」の説明の工夫をまとめ、「おもちゃの作り方」の説明文を讀む。	○ 讀み取った説明の工夫をまとめ、おもちゃの作り方を讀むことで、学びを生かして説明書を書く活動の見通しをもつことができるようにする。	
ま広 げめる	3	8 教師が提示したおもちゃを作り、作り方メモを考える。	○ 説明を簡単に書くことができるおもちゃを作らせることで、手順を作り方メモに書くことができるようにする。 ○ 「よく書けたかなカード」を基に讀み合うことで、分かりやすい説明書となっているか確認することができるようにする。	
		9 作り方メモを基におもちゃの説明書を書き、分かりやすい説明書となっているか確かめ合う。(本時)		○ おもちゃの作り方の説明を内容のまとまりごと にいくつかに分けて配置し、手順に沿って、説明の工夫を用いて文章を書くことができる。 (ワークシート・発表・観察) 【書く能力】 順序を表す表現を用いて書くことができる。 (説明書) 【言語についての知識・理解・技能】
		10 自分が1年生に勧めたいおもちゃの説明書を書く。	○ 説明のよい点を付箋に書き貼らせることで、自分の説明のよさを実感できるようにする。	
		11 「おすすめのおもちゃの説明書発表会」を開く。		

5 本 時 (9 / 12)

(1) 目 標 作り方メモを基に、おもちゃの説明書の「作り方」の部分に分かりやすく書くことができる。

(2) 展 開 ( ) は教師の言葉かけ ( ) は予想される子どもの反応 ( ) は重点評価項目と個に応じた指導 ☆はICT活用の留意点

過程(分)	主な学習活動と予想される子どもの反応	教師の指導
つ か む (4)	<p>1 前時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前の時間は、どんな学習をしたかな。</li> <li>・今日はどんな学習をする計画ですか。</li> </ul> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <p>つくり方メモをもとに、わかりやすい説明書を書こう。</p>	<p>○ 制作したおもちゃと作り方メモを提示することで、前時の学習を想起することができるようにする。</p> <p>○ 前時の作り方メモと学習計画を確認することで、本時の学習課題を立てることができるようにする。</p> <p>☆ 電子黒板に本時の学習の流れを提示することで、本時の学習活動の展開や方法について確認できるようにする。</p>
深 め る (2.2)	<p>3 学習の進め方を知る。</p> <p>(1) 説明書の工夫をみんなで話し合う。</p> <p>(2) 作り方メモを使って、おもちゃの作り方の説明書を書く。</p> <p>(3) 分かりやすい説明書になっているか確かめ合う。</p> <p>4 教材文の「作り方」の文を読み、説明の工夫を話し合う。</p> <p>どんな説明の工夫をしていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・順序を表す言葉を使って、手順に沿って書いています。</li> <li>・絵や数字を使って分かりやすくしています。</li> <li>・「何を」「どうする」の文と、注意の文を書いています。</li> </ul> <p>5 作り方メモを基に、説明書を書く。</p>	<p>○ 教材文の「作り方」の説明の工夫を確かめることで、本時の活動に生かす説明の工夫を確かめることができるようにする。</p> <p>おもちゃの作り方の説明を、内容のまとまりごとについて、かに分けて配置し、手順に沿って、説明の工夫を用いて文章を書くことができる。(ワークシート、発表、観察)【書く能力】</p> <p>◆ 手順に沿って説明の工夫を用いて文章を書けない子ども → 書く量や書き方の手掛かりが示されたワークシートを用意することで、書くことが苦手な子どもが説明書を書くことに取り組めるようにする。</p>
味 高 め ら る (1.5)	<p>6 説明文のよいところについて話し合う。</p> <p>(1) ペアで交換して読み、説明文のよいところを見つける。</p> <p>(2) 全体で友だちの作品のよいところについて話し合う。</p> <p>友達の説明書のよかつたところはどこですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 順序を表す言葉を使って書かれています。</li> <li>・ 作る順番のとおりを書いていました。</li> <li>・ 「何を」「どうする」の文や注意の文を使って書かれていてよかったです。</li> </ul>	<p>○ 友達の説明文のいいところを確認する「よく書けたかなカード」を使うことで、よさに気付くことができるようにする。(評価する)</p> <p>○ 書いたものをペアで交換し読み合うことで、互いの書き方の工夫やよい点に気付くことができるようにする。</p> <p>☆ 書いた説明文を電子黒板で掲示し、よい点にサイドラインを引くことで、他の友達の説明文のよさに気付くことができるようにする。</p>
ま 広 げ め る (4)	<p>7 今日の学習を振り返る。</p> <p>「順序を表す言葉を使う。『何を』『どうする』の文や注意の文を使って書く。絵も加えて書く。」に気を付けて書くと、分かりやすい説明文になる。</p> <p>8 次の学習について確認する。</p>	<p>○ 友達と自分の説明文を比較させることで、今後の自分の書き方に生かすことができるようにする。</p> <p>○ 学習課題を確認し、本時の学習のまとめを行わせる。</p> <p>○ 次時は、これまでの学習を生かして、1年生に作って欲しいおもちゃの作り方の説明文を書くことを伝えることので、学習の見通しをもつことができるようにする。</p>